

令和8年度 輪島市立東陽小中学校 中期学力向上プラン

研究主題

主体的に学び、対話を通して自分の考えを表現できる児童生徒の育成

目指す児童生徒の姿

- ・学習課題に対して自ら進んで学んでいる。
- ・友達との交流で問い返しをして自分の考えを深めている。
- ・各種テストでねらいに合った解答ができています。

(1) 現状と課題(R)

児童生徒の課題	現状と要因・根拠となるデータ
課題解決に向けて主体的に活動することができていない。 理解力不足や表現力不足で、自分の考えを適切に表現できていない。	[現状と要因] ○「TQワード」を使い対話を通して自分の考えを深めようとしている。その効果も感じられる。 △研究授業では、ねらいを達成する児童生徒が少ない。 →教師のねらい達成につながる手立てが不足している。 △学習課題に対して自ら進んで学ぼうとする児童生徒が少ない。 →主体的に児童生徒が「学びたい!」と感じる授業になっていない。 △学習内容の理解不足や作文の表現不足で、条件等必要なことをふまえて自分の考えを表現できていない。 →学習理解への手立てや、個々への見取りをふまえた働きかけが十分ではない。 [根拠となるデータ] ・前年度学力向上プラン 実施検証・成果検証・目指す生徒の達成状況 ・R8 全国学テ 4年国語 22①② (25%) 6年国語 3二 (33%) 4年算数 9-2 (25%) 6年算数 23 (0%) 9年国語 A4 四 (50%) 9年数学 5 (0%) ・R8 県学力 9年社会 3 (4) (0%) 9年理科 4 (4) (50%)

(2) 計画と実行(P・D)

具体的取組	検証項目(検証方法)	検証結果
・児童生徒が「学びたい!」と思う課題設定の工夫、ゴールイメージ『なりたいたすがた』の共有 ・目的や視点の共有、ゆだねる時間『わいわいタイム』の設定	実施検証①「課題設定の工夫と『なりたいたすがた』の共有をした。」(教師アンケート) 100% ②「授業の中で目的や視点を共有し『わいわいタイム』を設定した。」(教師アンケート) 100% 成果検証③「学びたいと思える授業だった。」(児童・生徒アンケート) 70% ④「目的や視点は『わいわいタイム』の役に立った。」(児童・生徒アンケート) 70% ⑤「『わいわいタイム』では児童生徒の考えが『なりたいたすがた』に近づいていた。」(研究授業) 70% ⑥「ねらいを達成している。」(研究授業) 70% ⑦ 検証問題 (単元末テスト・定期テスト) 65%	% % % % % % %

月	検証計画(誰が、いつ)	結果	取組の成果○・課題△
9	□①教師アンケート(全員 30日) □②教師アンケート(全員 30日) □③児童生徒アンケート(担任4週目) □④児童生徒アンケート(担任4週目) □⑤『なりたいたすがた』への近づき(研究授業 谷内) □⑤『なりたいたすがた』への近づき(研究授業 三盃) □⑥ねらいの達成(研究授業 谷内) □⑥ねらいの達成(研究授業 三盃)	% % % % % % % %	○ △
10	□①教師アンケート(全員 29日) □②教師アンケート(全員 29日) □③児童生徒アンケート(担任4週目) □④児童生徒アンケート(担任4週目) □⑤『なりたいたすがた』への近づき(研究授業 上田) □⑥ねらいの達成(研究授業 上田) □⑦検証問題(教科担・単元末テスト・中間テスト)	% % % % % % %	○ △
11	□①教師アンケート(全員 30日) □②教師アンケート(全員 30日) □③児童生徒アンケート(担任4週目) □④児童生徒アンケート(担任4週目) □⑤『なりたいたすがた』への近づき(研究授業 坂口) □⑥ねらいの達成(研究授業 坂口)	% % % % % %	○ △
12	□①教師アンケート(全員 17日) □②教師アンケート(全員 17日) □③児童生徒アンケート(担任3週目) □④児童生徒アンケート(担任3週目) □⑤『なりたいたすがた』への近づき(研究授業 濱野) □⑥ねらいの達成(研究授業 濱野) □⑦検証問題(教科担・単元末テスト・期末テスト)	% % % % % % %	○ △

(3) 検証と改善(C・A)

取組の成果○・課題△	目指す児童生徒の姿の達成状況
○	
△	%

